第47回日本児童文学学会賞の決定について

日本児童文学学会賞、同奨励賞および同特別賞は、わが国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績に贈られます。

今回は、二〇二二年七月から二〇二三年六月までの一年間に発表された児童文学・児童文化分野に関する研究・評論の中から、日本児童文学学会会員の推薦等をもとに、日本児童文学学会賞選考委員会（佐藤宗子委員長・酒井晶代・土居安子・水間千恵・横川寿美子の各委員）が選考にあたりました。結果は次のとおりです。

なお、授賞式は、一一月一八日（土）午後四時三〇分より、当学会第62回研究大会の席上にて行います。

二〇二三年一〇月

日本児童文学学会会長　宮川　健郎

第47回日本児童文学学会賞

◇該当作なし

第47回日本児童文学学会奨励賞

◇柿本真代『児童雑誌の誕生』文学通信　二〇二三年二月二八日

【贈賞の理由】本書は、近代日本における児童雑誌の生成および読書文化の形成について、とくにキリスト教系の二、三の雑誌に着目し、そのネットワークから読者との関係を追究していったもので、取り上げた雑誌については目録作成を含め丹念な検討がされている。書名の大きさとの乖離は指摘せざるを得ないが、今後の研究の進展を期すものとしたい。

【受賞者の略歴】大阪府生まれ。京都大学大学院博士課程研究指導認定退学。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、仁愛大学人間生活学部講師を経て、京都華頂大学現代家政学部准教授。

◇小林夏美『「語る子ども」としてのヤングアダルト――現代日本児童文学におけるヤングアダルト文学のもつ可能性』風間書房　二〇二三年五月一五日

【贈賞の理由】本書は、二〇〇〇年前後に出版された日本児童文学四作品をJ・バトラー、G・スピヴァク、竹村和子等を援用しつつ丹念に読み解き、従来の〈成長〉概念に拠らないヤングアダルト文学の可能性を論じた力作である。作品の選定や叙述の説得性に課題を残すも、理論的研究として示唆に富む一冊であり、今後の進展が期待される。

【受賞者の略歴】神奈川県生まれ。お茶の水女子大学大学院博士前期課程を経て、白百合女子大学大学院文学研究科児童文学専攻博士課程単位取得退学。同大学にて博士（文学）の学位取得。現在、聖学院大学・白梅学園短期大学・帝京大学非常勤講師。

第47回日本児童文学学会特別賞

◇浅岡靖央『「日本少国民文化協会」資料集大成』（全八巻・別冊）　金沢文圃閣　二〇二一年一二月～二〇二二年一二月の編集および解題

【贈賞の理由】本資料集は、戦時下の文化統制団体「日本少国民文化協会」の刊行物、内部文書、関連出版物等を収録し、索引、年表、解題を付したものである。長年にわたる地道な調査研究により、同協会の活動内容を詳らかにする資・史料を掘り起こし、先行研究を補完する形で整理・公開したことは、児童文化・文化史研究へのこのうえない貢献と認められる。

【受賞者の略歴】大阪府生まれ。明星大学大学院博士課程単位取得満期退学。白百合女子大学人間総合学部児童文化学科教授。著書に『児童文化とは何であったか』（つなん出版、二〇〇四年）など。

◇竹内オサム　雑誌『ビランジ』全50号（一九九七～二〇二二年）　の編集および発行

【贈賞の理由】　本雑誌は、竹内オサム氏の個人誌として、二五年にわたり、マンガ研究の黎明期から新人研究者を育て、マンガ研究に必要な基礎的なデータや資料を掲載し、マンガ発行に関わるさまざまな人たちの証言を記録し、児童文化関連の記事も多く掲載するなど、児童文化研究にとってもマンガ研究にとっても貴重な役割を果たした。

【受賞者の略歴】一九五一年大阪府生まれ。同志社大学名誉教授。著書に『戦後マンガ50年史』（筑摩書房　一九九五年）、『手塚治虫は「ジャングル大帝」にどんな思いを込めたのか―「ストーリーマンガ」の展開』（ミネルヴァ書房　二〇二一年）など。

◇福島可奈子『混淆する戦前の映像文化――幻燈・玩具映画・小型映画』思文閣出版　二〇二二年一二月二五日

【贈賞の理由】本書は、幻燈や玩具映画など非劇場型映像文化の歴史を、明治から昭和戦中期までの長い射程で跡付けた労作である。「松本夏樹コレクション」をはじめとする厖大な一次資・史料の調査をベースに、領域横断的なアプローチによって描き出された映像文化の多様性や混淆性は説得力に富み、児童文化・文化史研究としても特別に意義が認められる。

【受賞者の略歴】岡山県生まれ。大阪芸術大学芸術計画学科、ブリュッセル自由大学大学院哲学・文学研究科修士課程を経て、神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。現在、武蔵野美術大学非常勤講師、日本学術振興会特別研究員（早稲田大学）。